

クリスマス目前！ ケーキには欠かせない 12月上中旬、西尾のイチゴ出荷が冬の山場

クリスマスを目前に控えた12月上中旬、JA西三河いちご部会（深谷均部会長）のイチゴの生産・出荷が山場を迎えます。最盛期には1日に25,000パック（1パック270g²）を出荷の予定。クリスマスケーキ用の需要の高まりに合わせ、今シーズンのイチゴ生産の冬の山場を迎えます。

同部会では12月、業務用イチゴの出荷も行います。需要の特に高い12日から22日までの間に、合計約15万パックが出荷される見込み。1パック310g²の専用パックを用いており、やわらかい素材を用い、イチゴを置く場所に穴をあけることで荷傷みを避けています。階級はケーキに適した2L・L・Mの3種。

同部会はクリスマス前の需要期の出荷に特に力を入れており、部会の規模からくる安定した出荷量と、衛生面・品質面の高品質が、大手製菓業者からの高い評価を得ています。



小牧センターでの選果・出荷風景
生産者が輪番制により選別を行う

■取材対応日■

【日時】12月12日（水）午後4時30分
【集合】JA西三河 小牧センター
（西尾市吉良町小牧梶見堂3
電話：0563-35-0246）

■今年のイチゴの作柄（11月28日現在）

台風によるビニールハウスの被害や、長雨による「紅ほっぺ」（土耕栽培）の定植の遅れがみられ、生育は1週間ほど遅れました。

その後は天候不順や病害虫の発生もなく順調に生育。12月の出荷量は平年並みとなりそうです。

【JA西三河いちご部会 概要】

部会員数：89人
耕作面積：約17.1畝
出荷量：約950ト²（平成29年実績）
収穫期：11月～6月
（出荷量ピークは4月）



西尾市のイチゴ生産の概要

～市内最大の部会員数、「いちごスクール」で新規就農者呼び込む～

■西尾のイチゴ生産の特徴■

J A西三河いちご部会では89人の生産者が高設栽培（章姫）・土耕栽培（紅ほっぺ）でイチゴを生産しています。

クリスマスケーキ用の需要が高まる（＝単価が高まる）12月上中旬に一番果のピークを迎えられるように栽培していることが特徴。8月ごろにイチゴ苗に夜冷処理を施して花芽を分化させており、早い人では10月下旬から出荷をスタート。例年11月中旬にはすべての部会員が出荷を始めます。12月には連日収穫・出荷が行われ、イチゴ農家はとても忙しい日々が続きます。



「章姫」（左）
甘くて柔らかいのが特徴。
高設栽培を行っています。



「紅ほっぺ」（右）
甘味と酸味のバランスが良く、
スイーツなどの加工用に適して
います。

■「虫」をもって「虫」を制す 天敵の利用で農薬使用を抑制■

同部会では農薬（殺虫剤）の利用の抑制とコスト低減・省力化のため、天敵（害虫を捕食する別の虫など）を利用した防除を行っています。

2015年より、イチゴの重要害虫であるハダニの発生を抑えるため、天敵資材「バンカーシート」を導入しました。これはハダニを捕食するダニの「ミヤコカブリダニ」を保護して効果的に増殖するための小さな箱状の資材で、ミヤコカブリダニを長い期間放飼でき、ハダニの発生を抑制します。



「バンカーシート」を設置するイチゴ農家

■新規就農者向け施設栽培イチゴ講座

「いちごスクール」2019年6月より研修開始！■

J A西三河いちご産地振興委員会は今年4月より、施設栽培イチゴの就農支援プロジェクト「いちごスクール」の参加を希望する新規就農者を募集しています。

同スクールは施設イチゴ栽培での就農を目指す方を対象とする就農支援プロジェクトです。栽培技術などを生産者が直接指導する実務研修から、経営研修・農地取得・補助金申請などをセットに、新規就農・1ターン就農者を専業農家まで育成します。

本格的な研修は2019年6月より西尾市内のイチゴ農家圃場でスタート。栽培施設の建設などを行い、2020年11月からの本格出荷を目指します。

※2019年度受講開始の受講生募集は2018年12月末まで行っています。



【生産者部会情報】

名称：J A西三河いちご部会
部会員数：89人 耕作面積：約17.1㍏
流通先：愛知県・石川県・新潟県
出荷量：約950ト（平成29年実績、業務用出荷等含む）（愛知県では市町村単位で1位）
収穫期：11月～6月（ピークは4月）

（全国の生産概況）

全国のイチゴ出荷量：150,200ト
愛知県のイチゴ出荷量：9,410ト（東海地方では静岡県（9,950ト）に次ぐ2位）
データ：農林水産省 作況調査（野菜）平成29年度確報
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&lid=000001215303>